

2016年3月期第3四半期決算 決算説明会 Q&A (要旨)

【2016年3月期第3四半期の業績について】

Q：第3四半期は、売上高、受注高ともに減少（売上高 前年同四半期比 2.1%減、受注高 同 4.9%減）しているが、それは一時的なものか、それとも、事業環境に変化が生じているのか。

A：第4四半期には、制度改正対応（マイナンバー制度、金融所得一体課税など）や、主要顧客向けの新規テーマ立ち上がりが見込まれるため、引き続き、4.7%増収の通期予想達成を目指していく。受注高は契約のタイミングに左右されることが多く、前年同四半期比では減少することもあるが、足元の事業環境は堅調と考えている。金融 IT ソリューション関連の IT コンサルティング案件が増えており、今後はこの分野のシステム開発案件の増加を期待している。

Q：証券業が第3四半期に減収（前年同四半期比 5.0%減）となった要因は何か。

A：主要顧客向け大型案件が予定通り終息に向かう影響による。一方、主要顧客向け以外は、共同利用型サービスの拡大や制度改正対応などで増えている。

Q：第3四半期の売上総利益率が 34.1%（前年同四半期比 3.6 ポイント増）と高い水準となった要因は何か。

A：稼働率が改善しているほか、不採算案件や低採算案件など、利益率を引き下げるプロジェクトが減少し、全体的に採算性が向上したことによる。

Q：販売費及び一般管理費が増加（前年同四半期比 19%増）している要因は何か。

A：主に、M&A に伴う人員の増加や取得費用、のれん償却費の増加などの影響で、人件費や事務委託費が増加した。事業拡大に伴う増加も販売管理費を押し上げた要因のひとつである。

【2016年3月期第4四半期の業績見通しについて】

Q：営業利益の通期予想から第3四半期までの実績を差し引くと 147 億円であるが、第3四半期の営業利益が 149 億円であることから、予想を上回るのではないか。

A：収益性については好調な状況が継続しており、営業利益は通期予想達成に向けて着実に進捗している。

【その他】

Q：IoT、FinTech、ビッグデータなど IT 関連のトピックスについて、NRI が強みを発揮できる分野はどこか。

A：NRI が得意とする金融関連分野で新しいソリューションを実現していきたい。現在、証券会社や

・本資料は、2016年3月期第3四半期の業績および今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではなく、また何らかの保証・約束をするものではありません。本資料に掲載されております事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、また今後、予告無しに変更されることがあります。
・本資料のいかなる部分も一切の権利は野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

銀行と実証実験も進めている。また、デジタルマーケティング分野を得意とするブライアリー・アンド・パートナーズ（2015年4月連結子会社化）とも、新たなビジネスモデルを構築して相乗効果を出していきたい。

以上

・本資料は、2016年3月期第3四半期の業績および今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではなく、また何らかの保証・約束をするものではありません。本資料に掲載されております事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、また今後、予告無しに変更されることがあります。

・本資料のいかなる部分も一切の権利は野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。